令和８年度

茨城県優良図書紹介【高校生・勤労青少年向け】



『マッドのイカれた青春』

実石沙枝子（祥伝社）

ルックス最強美少女は、周囲の人間のあらゆる感情を刺激し、騒動を巻き起こす。「これって全部、あたしが悪いの？」見た目を、無意識に判断基準にしていないか。高校生たちが 3 年間を駆け抜けた先の、卒業式の答辞に心が揺さぶられる。



『星の教室』

高田郁（角川春樹事務所）

日本において義務教育を終えていない人は、今でも約 90 万人いる。それはなぜなのか?学びたいという願いをあきらめない、手放さない。中学の卒業証書を受け取らなかった主人公は、バイト先で夜間中学の存在を知る。



『逃げ続けたら世界一周していました』

白石あづさ（岩波書店）

「つらくなったら旅に出よう」、いや「旅に逃げよう」。世界一周の旅で出会った人々や出来事を通して、心がほぐされていく。海外には行けなくても大丈夫。ページをめくるだけで旅を追体験し、自分を救う術が身につく「心の避難訓練」の指南書。



『それいけ!平安部』

宮島未菜（小学館）

「平安時代に興味ない？」

県立菅原高校の「平安部」創設から始まる青春部活小説。個性的な部員たちが活動を模索しながら、真っ直ぐに前へ進んでいく。1000 年の時を超えて、「平安部、マジいみじ」



『1945 年 8 月 6 日あさ 8 時 15 分、わたしは』

原爆を体験した子どもたち/言葉　いわさきちひろ/絵（童心社）

『わたしがちいさかったときに』を、新たに編み直した絵本。戦争の悲惨さと平和の尊さ、そして過去と今を繋ぐ本といえる。原爆体験を綴った本としては格段に読みやすいので、戦争をするとはどういうことかを考えてみてほしい。